

関西
ステンレス輸出大手が ㈬ 5円値下げ

(大阪) 関西地区のステンレススクラップ相場は弱気寄りの基調で月末に差し掛かっている。韓国向け輸出大手が先週22日から ㈬ 5円値下げすると発表し、市況は先安気配に包まれた。目先は高炉大手も同調下げに傾く可能性が高まる展開だ。ただ、今月上旬に中部ミル2社が個別5円上げを実施しており買値の差がさらに開く側面もあるため、その対応に注目が集まる。

韓国向け輸出大手は先週後半に22日からの5円下げを正式に発表。SUS304新切れの実勢買値は175～180円見当に下落した。国内ミルの買い気が弱いことや拠点在庫に不足感が目立たないこと、韓国ポスコの需要が低調なうえ、ニッケル安で弱含みの地合いにある12月価格の先安を織り込んだ対応とみられる。

ある商社筋は「ポスコと韓国現地ディーラーとの価格交渉は値下げを前提に進められていると聞く。韓国向けの需要鈍化やニッケルが軟調なことを踏まえると、輸出市場も強気材料は見当たらない」と指摘する。

ただ、輸出大手の値下げ改定をめぐっては、これまでも実効に曖昧な一面を覗かせたケースがあるため、ある問屋筋は「ナイモノ高が続く環境下、実行の有無

を慎重に見極めたい」との声も聞かれる。

一方、西日本地区の国内ミルの実勢買値は180～185円見当。輸出先行安を受けて高炉大手が同調する公算は大きい。ある直納筋は「中部ミル2社の買値が高値水準にあるため、月替わりまで様子見する可能性もある」と話す。ただ、スクラップの需要が低調なことで国内相場を下支えする材料は乏しく、近日中に高値修正を含めた下落局面を迎える見込みだ。

LMEニッケル・ステンレススクラップ相場推移

	LMEニッケル相場 (月平均) $\text{㈬}/\text{MT}$	LME Ni在庫 (期末/ t)	ASIA・SABOT $\text{㈬}/\text{MT}$	フェロクロム相場 高炭素品・ $\text{㈬}/\text{B}$	為替相場 (TTS)
2023年平均・合計	21,505	64,055	1,443	164.25	141.56
2024年平均・合計	16,818	160,535	1,338	156.50	152.58
2025年1月	15,379	172,302	1,270	143.00	157.54
2月	15,275	194,964	1,260	143.00	153.02
3月	16,055	198,720	1,300	143.00	150.25
4月	15,210	201,313	1,220	148.00	145.49
5月	15,325	199,380	1,230	148.00	145.75
6月	14,989	204,006	1,230	148.00	145.54
7月	15,023	208,692	1,250	153.00	147.74
8月	14,909	209,544	1,240	153.00	148.71
9月	15,102	231,312	1,260	153.00	148.99
10月	15,080	252,102	1,260	163.00	152.30
11月	14,704	253,482	1,240	163.00	155.85

※11月は24日までの平均値

インドのSUS スクラップ 輸入 9カ月連続の増加 8月11万9千 ㈬

インドのステンレススクラップ輸入量が9カ月連続で前年実績を上回った。インド貿易統計によると、8月の輸入量は前月比10.2%減、前年同月比2.3%増の11万9111 ㈬ だった。前月から減少したものの、現地需要家の引き合いは底堅く、全体量は昨年7月以降14カ月連続の10万 ㈬ 超えとなった。

輸入先で最多は米国からで同3.4%増、同14.1%増の1万7555 ㈬ 。次いでアラブ首長国連邦からが同35.1%減、同21.6%減の9,159 ㈬ だった。一方、日本からは同11%増、同71%増の4,152 ㈬ で今年最多を記録した。

1～8月の累計輸入量は計105万6997 ㈬ で、前年同期比41.6%増となった。

富士マテリアル、SDGs活動を強化 認知向上に尽力

(大阪) レアメタルやレアアースのリサイクル事業を展開している富士マテリアル(本社=大阪府大阪市、西尾一社長)はこのほど、SDGsの活動の幅を広げ、地域貢献活動に注力している。これまでも、倉庫を構える大阪市大正区の小・中学校へバスケットボールや連絡帳の寄贈を行ってきた。

同社では、定期的に外部からコンサルタントを招き、全社員が参加するワークショップを開催している。社員からはSDGsの活動に関するさまざまな企画が提案され、採用したものも多いという。こうした中、採用された企画として、9月からオリジナルの清掃用作業着を着用し、全社員で本社と工場周辺を清掃する清掃活動をスタートさせた。また清掃活動とワークショップは同日に実施することから、当日は工場もスクラップの受け入れを停止しており、取り組みに対する同社の強い意志がうかがい知れる。ワークショップについ

て西尾社長は「社員たちが自主的に発言し、コミュニケーションが活発化していると感じている。発表された企画を実際に採用することで、社員たちのモチベーションの向上にもつながるのではないかと話す。

このほかにも緑化活動の一環として、大阪府に街路樹を寄付する「大阪府マイツリー事業(寄附樹木植栽事業)」に応募し、植栽された街路樹には社名入りの樹名プレートが取り付けられる。SDGsの活動について西尾社長は「清掃活動では近隣住民からねぎらいの声もかけられ、非常にうれしかった。今後も地域貢献活動を継続していき、リサイクル業界に対するイメージを改善しながら、地域住民や学生らの認知向上につなげていきたい」とコメントしている。



清掃活動の様子